



# 武中の風

校訓

「自主」「協同」「永続」「健康」

学校便り令和7年8月号

鹿児島市立武中学校

## 兄弟校盟約50周年記念交流事業

校長 坂中 裕一

令和7年度の大きな行事であった鶴岡第二中学校との兄弟校盟約50周年交流事業を無事に終えることができた。改めて歴史を振り返ると昭和44年、鹿児島市と山形県鶴岡市は兄弟都市盟約を結んでいる。この盟約は戊辰戦争を契機としたものであり、武中学校は昭和50年に全国でも珍しい学校間同士の盟約を鶴岡第二中学校と結ぶこととなった。本校が創立78周年であるから、兄弟校盟約の歴史は本校の歩みとさほど違わない。

7月30日から8月1日の三日間、鶴岡第二中学校の教職員、生徒代表、PTA、後援会、総勢24名の使節団が鹿児島市を訪問され、記念式典を実施するとともに市内の観光を行った。これまで2年に一度の相互交流は、コロナ禍の一時中断を両校の作品交流で繋ぎ、令和5年度に復活を遂げて今年に至っている。

鶴岡第二中学校の来校以前から、鶴岡市を訪問した武中学校の関係者は、揃って西郷南洲翁に対する敬意の念は、想像を超えるものがあると語られていた。なぜ、鶴岡の方々がこれほどまでに鹿児島を慕われるのか。このことは、今回私の最大の関心事であった。その答えが兄弟校盟約50周年記念式典の中で、鶴岡第二中学校の佐藤大吾校長から語られた。「鹿児島市と鶴岡市の関係は、かつての敵対関係を乗り越えて築かれたものであり、そのような経緯を原点として交流を重ねているという点において、国内はおろか世界的に見ても極めて稀で、貴重な関係だと感じている。また、郷中教育によって培われた南洲翁をはじめとする薩摩の武士による温情と寛大さ、そして庄内藩主・酒井忠篤（ただずみ）公と家老・臥牛翁、菅実秀（すげさねひで）の『敵から受けた恩を忘れず、敬意と学びをもって応える。』姿勢が、両市を深い縁で結びつける礎となっている。」と……。また、東川隆太郎氏の案内で、かつての城下町を巡って歩いたが、東川氏の博識には驚かされるばかりであり、それとともに余りにも郷土の知識に乏しい私自身に気付かされることとなった。

今回の交流をとおして生徒たちが何を学んだのか推し図ることしかできないが、日々の友人関係を良好な関係へと導く糸口は、150年以上も前の偉人たちが範を示しているように思えてならない。戊辰戦争後、西郷南洲翁がどのような心情で庄内藩と対峙したのか想像してみたくなる。それは「真心で向き合い、許し、待つ」心であったのかもしれない。

さて、鶴岡第二中学校は、現在生徒数380名、学習、生活、部活動の全てにおいて前向きに取り組んでいるとお聞きした。山形県中学校総合体育大会では女子バスケットボール部が準優勝し、東北大会への出場を決め、使節団で来校した女子生徒1名は100メートル背泳ぎで県一位を獲得し、その他、相撲などの分野でも個々で頑張っているようである。武中学校の生徒も同様である。中体連を例にとっても全国大会、九州大会、県大会と活躍してくれた。そして、7月31日の記念式典は、進行、挨拶、誘導、劇、校歌斉唱など、全てを生徒会主体で運営した。参加した生徒たちも式典での態度が素晴らしかった。それは、卒業生の方々、盟約後援会の方々など、様々な方から賞賛をいただいたことに表れている。これまでの準備に関わった生徒たち、会場準備を手伝ってくれた生徒たち、暑い中、素晴らしい式典となるよう自席で支えてくれた生徒たち、本当にありがとう。また、期間中、お仕事の都合をつけてお手伝いいただいた保護者の方々、誠にありがとうございました。今回の50周年交流事業を経て、この兄弟校盟約が末永く続くことを願っている。



### 9月の主な行事

- 1日 始業式
- 3日 夏休み明けテスト  
3年第二回実力テスト
- 7日 若武セミナー（共同作業）
- 16日 体育大会予行
- 21日 第79回体育大会
- 22日 振替休日
- 26日 3年第3回実力テスト